

## 八木御里遺跡(国史跡)(養父市八鹿町八木字御里)

国指定文化財の史跡八木城跡の山麓南斜面に位置する御里遺跡は、八木豊信の城主館跡と推定されています。また豊臣秀吉から大名として八木に領地をえた別所重棟・吉治の城主館や八木藩の藩庁なども、御里遺跡に置かれたと推定されています。平成14年度は掘立柱建物や敷石遺構が発見されました。

史跡八木城跡は平成9年3月6日に国指定文化財になりました。御里遺跡は国指定文化財八木城跡の山麓に位置し、いわゆる根小屋といわれる位置に立地します。戦国期の八木豊信や豊臣期の別所重棟にかかわる城主館や武家屋敷が広がっています。

八木豊信は織田信長の発給文書に名をのこす但馬を代表する有力国人の武将であり、天正8年(1580)まで在城し、羽柴秀吉の家臣として因幡若桜鬼ヶ城に移りました。その後、別所重棟は天正13年に豊臣大名として入封しました。これまでの調査によって16世紀第3四半期から第4四半期にかけての青花碗・天目茶碗・瀬戸美濃陶器・土師器皿などの重要な遺物が出土しています。

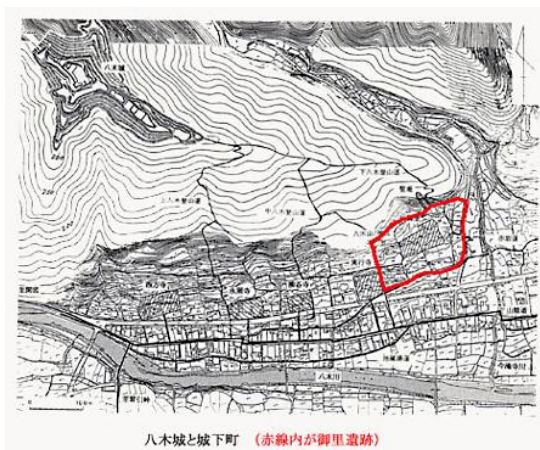
この調査の中で八木御里遺跡が、戦国期から豊臣期にかけての国史跡八木城跡の城主館であることを確認し、その城主館としての資料が増加してきました。しかし別所氏時代の城主館や石垣、さらには八木藩の藩庁といった具体的な建物が整然とした形で全域に完成していたかどうかは、まだ未解明です。

豊岡城の城主館は慶長2年(1598)に入った杉原長房が城郭石垣に改修したと考えています。八木御里遺跡は城郭石垣に改修せずに慶長5年の廃城を迎えた城主館として重要だと考えます。

「やぶ市教育委員会」サイトによる



平成28年現在



位置



発掘遺構



発掘遺構